

けた。NY銅相場は1.30セント安の321.75セントと反落。中国需要懸念で下落となった。

NYカーブは6,975.75～6,976.25ドル、LME先物比は9.00安となった。

### 錫は僚品安で後場下落に

LME錫相場は250ドル安の2万2,540ドルと反落。僚品安で後場上昇となった。

### 鉛は僚品安で値を下げる

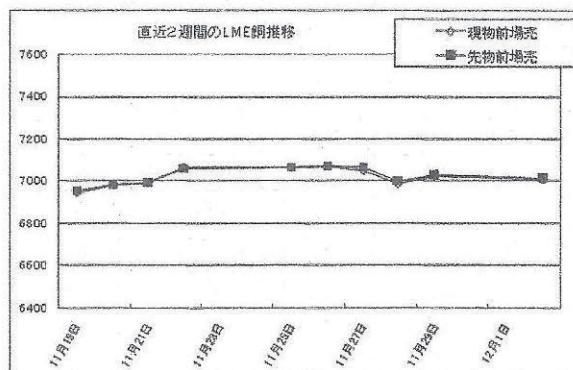
LME鉛相場は21.5ドル安の2,040ドルと反落。僚品安で値を下げて引けた。

### 亜鉛は僚品安を受け下落

LME亜鉛相場は11ドル安の1,855ドルと反落。僚品安を受け下落して引けた。

### アルミは在庫増を嫌気、1700割れ

LMEアルミ相場は23ドル安の1,694ドルと反落。在庫増を嫌気し下落、1,700ドルを割り込んだ。LMEアルミ合金は12ドル安の1,740ドル、北米特殊アルミ合金は6.5ドル安の1,765ドル。



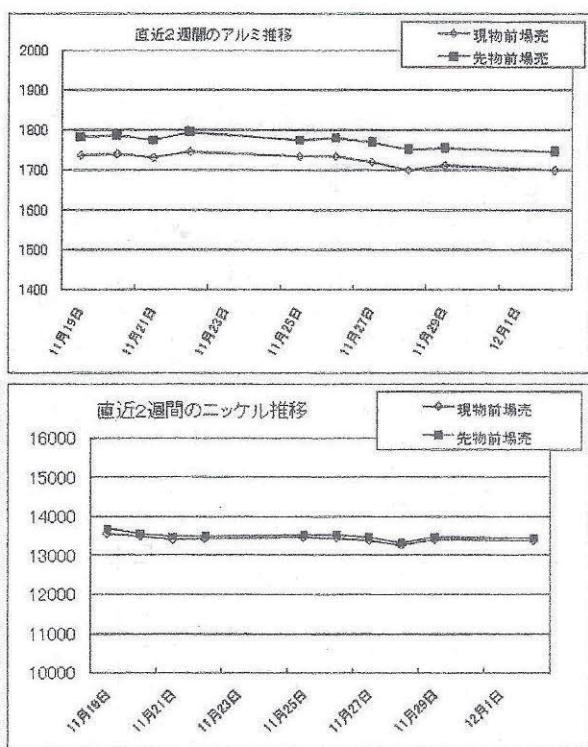
### ニッケルは僚品安で後場一段高

LMEニッケル相場は130ドル安の1万3,385ドルと反落。僚品安で後場一段安となった。

### KLTM錫は48.2セント続落

### 採算値は3,000円高

KLTM錫は、48.2セント安の72.654Mドルと続落。USドルは75ドル安の2万2,595ドルで出来高は56トン。Mドル/USドルレート=3.2155とTTSレート103.91円で換算した採算値は3,000円高の235万3,000円、諸掛込みの採算値は3,000円高の251万3,000円。



## 橋本健一郎氏の銅スクラップ11月レポートと12月見通し

■概況：前半は米週間新規失業保険申請件数が34万件に減少、予想の33.8万件をやや下回ったことによる金融緩和継続期待や10月のユーロ圏総合景気改定値の上方修正、9月の独製造業受注指数の予測を上回る上方修正など好材料があったが注目の10月のアメリカ雇用統計で非農業部門雇用者数が20.4万人増加と予測の20万人を上回ったことを好感する反面、金融緩和縮小の可能性も高まった事、また今月9～12日開催の第18期中央委員会第3総会で習近平指導部が初めて独自政策方針を出したものの期待外れだった失望感から大幅下落。6939ドル(セツル)と前月最終価格より337ドル下げての前半締

めとなった。

後半は11月のHSBC中国製造業PMI速報値が50.4に低下、11月のユーロ圏総合PMI速報値は51.5に低下、予想の52を下回り、9月末のスペイン財政赤字がGDP比4.8%、今年目標の6.5%を下回るなどマイナス材料があったが米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(10月29～30日開催分)を受け、量的金融緩和策が想定よりも早期に縮小されるとの警戒感を尻目に週間の新規失業保険申請件数が前週比で大幅に減少し、米雇用情勢が順調に回復しているとの期待が強まり、NYダウが買いが優勢となり過去最高の1万6000ドルを超えた事を好感。11月30日現在、前半締

めから88ドル上昇の7027ドル、建値76万円のスタートとなった。

**■前月の経済指標:**日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+10.1%の87万1434台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は前年比+13.3%の27万6399台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は前年比+7.1%の9万226戸であった。貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は前年比で電気銅が-5.2%の3万5038t、スクラップが-24.3%の2万7150t。輸入は電気銅が前年比+21.5%の3765t、スクラップが-13.1%の7078t。前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)では前年比+5.6%の6万9540t。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)では前年比+10.6%の6万6400tであった。

**■見通し:**9月は中国第18期中央委員会第3総会で示される習近平指導部の初めて独自政策方針の内容と日米株価の急騰に一喜一憂した月となった。自動車生産は前年比+10.1%の87万1434tで2カ月連続プラス、乗用車+9.6%、トラック+14.9%、バス-2.8%。販売の方は3か月連続前年超えの前年比+13.3%、乗用車+13.4%、貨物+12.4%、バス+4.9%。新設住宅着工戸数は先月に続き14カ月連続増加の前年比+7.1%(前月比(季節調整済み)-0.7%)の9万226戸。今月も好調であるがややピークを過ぎた感じもあり、持家+17.6%、貸家+3.3%、分譲住宅-17.7%と6カ月ぶり減少。伸銅品生産量は前年比+5.6%の6万9540tと4カ月連続前年を上回る。輸出は円安を追い風に7カ月連続前年プラスの+19.7%。銅電線出荷量は前年比+10.6%の6万6400t、国内+10.3%、輸出+24.5%、通信-3.1%、電力+10.6%、電気機械+11%、自動車+12.2%、建設電販+10.8%。輸出に関しては、電気銅輸出が前年比-5.2%の3万5038t。銅スクラップは-24.3%の2万7150t。円安で輸出環境であったが好調な国内生産を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少し

た。輸入は電気銅が+21.5%の3765t。スクラップは-13.1%の7078t、内需の好調から電気銅の輸入が増加したとの見解。

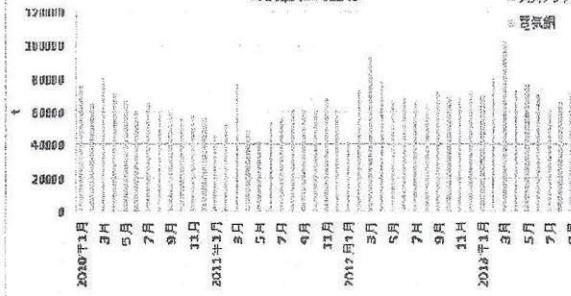
銅需給に関しては、住宅関連は新設住宅着工数が前年比+7.1%と14カ月連続増加、持家+17.6%、貸家+3.3%と大幅増。ただし分譲住宅-17.7%と6カ月ぶり減少、やや天井の感もあり今後の動向に注意。待望の自動車は生産が2カ月連続上昇の+10.1%。さらに11月の国内販売台数が前年比+13.3%と大幅増で前月に続き予測通り販売増につられて生産が増加。住宅の動向は要経過観測だが消費税前のかけ込み需要から住宅、自動車需要の2本柱が上昇し今後供給不足が拡大する可能性が高い。

銅価格に関しては、今月は日米の経済指標及び金融政策に左右される。新規材料難の中、今年も残りわずかとなり日米株価が堅調に上昇していることからそれらに水を差すようなアメリカの金融緩和縮小開始が年末に行われる可能性が少なくなった(行われるとすれば債務上限期限の2月7日以降か)。両国の経済指標に関してだが、株高・円安・消費税前駆け込みなどの好材料から底上げもあり相対的には堅調な結果が出てくるとの予測。それらを踏まえた銅価格は11月後半高値付近の7300ドルを予測。下値はFRBによる金融緩和縮小開始が起こった場合10月後半安値の6900ドルを予測。為替はアメリカ株の最高値更新に伴う底上げ効果からのドル高円安予測からもう一段円安の101-103円との予測。銅建値に関しては730-790円程度と予測している。

|         | 8月       | 9月       | 10月      |
|---------|----------|----------|----------|
| 生産台数    | 88万487台  | 87万3623台 | 87万1434台 |
| 前年比     | -7.6%    | +13%     | +10.1%   |
| 9月      | 10月      | 11月      |          |
| 販売台数    | 82万4315台 | 26万4587台 | 27万6399台 |
| 前年比     | +12.4    | +17%     | +13.3%   |
| 8月      | 9月       | 10月      |          |
| 新設住宅着工数 | 8万4343戸  | 8万8639戸  | 9万226戸   |
| 前年比     | +8.8%    | +10.4%   | +7.1%    |
| 輸入      | 8月       | 9月       | 10月      |
| 電気銅     | 901t     | 2679t    | 3765t    |
| 前年比     | -63.3%   | +13.7%   | +21.5%   |
| スクラップ   | 5240t    | 5281t    | 7078t    |
| 前年比     | -22.6%   | -29.7%   | -13.1%   |

| 輸出    | 8月      | 9月      | 10月     |
|-------|---------|---------|---------|
| 電気銅   | 4万2008t | 4万4851t | 3万5038t |
| 前年比   | -1.7%   | -0.5%   | -5.2%   |
| スクラップ | 2万3888t | 2万7305t | 2万7150t |
| 前年比   | +6.9%   | -1.9%   | -24.3%  |

### 銅輸出推移



### 銅輸入推移

